

東洋哲学研究所の創立50周年、おめでとうござい
ます。

私は（2009年に）貴研究所で講演させていただ
きました（池田大作とデュイ・ひとつの宗教的対話」、第25
回学術大会で）。

その際、私が実見したのは、心のこもるもてなしで
あり、また研究所の高い学術レベルであり、そして研

「新・啓蒙時代」の使者と期待

ジム・ガリソン

ルギーと能力でした。お会いした他の皆さまと同様、
彼らは礼儀正しく、うやうやしい態度でしたが、それ
にもかかわらず、突っ込んだ質問を臆することなく投
げかけ、その問題を熱心に探究していました。これは
明らかに、先輩の研究員の方々のご指導のたまものだ
と思います。この事実は、研究所の次の50年が明るい
ことを予告しています。

新たに「ボス
ト世俗化時
代」を迎えつ
つあります。

究所の目標に向かって情熱的に取り組んでおられる皆
さまの姿でした。その目標とは、日蓮仏教と法華経が
世界の精神的・宗教的遺産に大きく貢献することであ
り、また、すべての宗教的伝統が人類と世界平和に奉
仕できる道を探求しつつ、宗教間対話の重要性に貢献
するということです。

とくに印象的だったのは、若い研究員の方々のエネ

この時代は、新たな世界的啓蒙時代を要求しています。
それは、18世紀といういわゆる「啓蒙時代」にヨーロッ
パを席卷した、より狭い思考をはるかに超えたもので
す。
かつての啓蒙時代は「（文化伝統などの）背景から切り
離された、抽象的で、普遍的な理性。それだけが、よ
りよい世界をもたらすことができる」と思い込んでい

門外不出の仏教文献が展示された「法華経とシルクロード」展。東洋哲学研究所が学術交流協定を結ぶ「ロシア科学アカデミー東洋学研究所サントペルブルク支部（現・東洋古文書研究所）」の所蔵する貴重な古写本47点が展示され、創立前も会場へ（1998年11月9日、東京・新宿区内）



ました。宇宙のより偉大な力に支えられる必要などないということです。それは人類の感性や宗教的感情に対する偏狭な考えでした。

これからの「新・啓蒙時代」は、理性と科学の役割を評価しつつも、「意味」と「価値」とを他の文化的・宗教的伝統と共同で創造することを求めています。そして、互いの違いを尊重するばかりでなく、目標のために助け合いながら、共通の「人間性」をはぐくもうとするコスモポリタニズムを要求しています。

私は、東洋哲学研究所は、この新時代の使者であると考えているのです。

(Jim Garrison／米国ジョン・デューイ協会前会長)